

3. まちづくりの課題 （基礎調査の結果から考察）

○敦賀市におけるまちづくりの課題

◎人口

- 将来的な人口減少傾向、特に生産年齢人口の減少傾向が懸念され、今の都市サービス水準を確保するためには、現状の人口密度水準を確保することが必要である。
- 将来の都市の活力維持を目指す上でも、子育て世代を中心とした若年層の増加を図る必要があり、子育て世代が住みよいまちづくり・環境整備を進める必要がある。
- 将来的な高齢者（交通弱者）の増加見込みを踏まえると、利便性の高い都市サービス利用の観点から、現状以上の市街地エリアの拡大を防ぐ必要がある。

◎土地利用・開発動向

- これまで宅地開発や商業施設の立地が郊外に進展し、用途地域外でのスプロール化が進行しており、将来的なインフラの整備・維持管理への負担増大が懸念される。
- 国道27号により市街地が分断されている都市構造であり、旧市街地と新市街地の二極化が進行しており、それぞれのエリアでの機能集約が求められる。
- 旧市街地で空家が増加しており、市街地の空洞化に拍車をかけていることから、空家の利活用を進めることが必要である。

○敦賀市におけるまちづくりの課題

◎公共交通

- コミュニティバスを中心とした公共交通網が充実している現状が、市民の都市生活を支えており、現在のサービス水準を維持することが必要である。
- 持続可能な公共交通システムとするため、ネットワーク＋ハブ化などの効率的で利便性の高いコミュニティバス網の構築が必要である。

◎災害対策

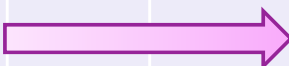
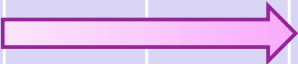
- 市街地の外縁部に土砂災害特別警戒区域に指定されており、防災への配慮を総合的に検討する必要がある。
- 市街地の大部分が笙の川の浸水想定区域にかかっており、防災対策や居住誘導のあり方について検討をする必要がある。

◎都市施設立地状況

- 商業、教育、医療、児童福祉、高齢者福祉施設の立地状況をみると、現状では用途地域内にその多くが立地しており、居住誘導や都市機能の集約化を進めて行く上で、将来的にも現行サービス水準の確保が求められる。
- 教育施設や福祉施設の中には老朽化しているものがあり、将来的に更新、統廃合を検討していく必要がある。

4. 計画策定の 全体スケジュール

○全体スケジュール

	平成28年度			平成29年度				平成30年度			
	6-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
現況調査・課題整理											
計画・将来の目標検討											
将来都市構造の検討											
居住・都市機能誘導区域の検討											
誘導施設の検討											
居住・都市機能誘導施策の検討											
評価方法の検討											
計画の作成											
住民説明会											
パブリックコメント											
政策プロジェクト会議	●	●	●	●	●	●	●				
策定委員会		◎	◎		◎		◎			◎	
都市計画審議会			◇				◇				◇